

# 創業140周年を迎えて

有斐閣 代表取締役社長 江草貞治〔Egusa Sadaharu〕

2017年1月をもちまして、小社は創業140年目を迎えました。

社の歴史をふり返りますと関東大震災や太平洋戦争、戦後ある時期に経営の苦しい時代もありましたが、ご愛顧いただきました読者の皆様、ご執筆いただきました先生方に支えられて今日までたどり着くことができました。心より御礼申し上げます。

私が社長に就任して10年ということになりますが、このわずかの間に出版を取り巻く環境は激変いたしました。かつては大量の出版物を全国に確実に届けるために整備された流通網や、全国津々浦々の書店が相応の利益を維持しながら多品種の出版物を店頭に並べることのできる取引システムが極めて有効に機能し、戦後の復興から現代の経済発展への下支えになっていました。しかし近時、情報流通はICTの急速な発展により変革を遂げ、今や前述の出版・流通システムは時代遅れになりつつあるようです。また、小社の主たる活動領域である大学や大学院における研究・教育環境も様変わりしてきており、改めて学問の世界における出版とは何か、そこにおける我々の役割は何かということ問い直さざるを得ない状況になっております。140年の歴史の中でもこれほど急激かつ多岐にわたる変化は、それこそ創業以来と言っても過言ではありません。

創業者・江草斧太郎は自身が学問を好んでいたため、世が世であれば、研究者になって某かの成果を残したかもしれませぬし、あるいは教育者として過ごしていたかもしれませぬ。明治維新により研究の道に進むことは叶いませんでしたが、学問への情熱を若き書生たちに注ぎ、彼らの成長を支える縁の下の力持ちとして書店・出版業に邁進いたしました。

当時の時代背景をみても、列強諸国に追いつくために西欧の学問を取り入れ、印刷技術も木版から活版へ、流通も鉄道による全国流通網が引かれるなどの、まさにイノベーションの真っ直中での創業でした。

現代における環境の変化も、創業者の思いに立ち返れば、当時のイノベーションに匹敵、あるいはそれ以上の状況であると思います。私たちは今こそ「新創業」と位置づけて、新しい取り組みと共に学問の世界における伴走者として使命を全うしたいと考えております。今後ともご愛読、ご指導賜りますようお願い申し上げます。





# 有斐閣 創業一四〇年の歩み

明治一〇年  
「一八七七」

明治一二年  
「一八七九」

明治一七年  
「一八八四」

明治一八年  
「一八八五」

明治二五年  
「一八九二」

明治二八年  
「一八九五」

明治三四年  
「一九〇一」

明治三七年  
「一九〇四」

明治四一年  
「一九〇八」

大正元年  
「一九一二」

大正二年  
「一九一三」

大正三年  
「一九一四」

大正八年  
「一九一九」

大正一〇年  
「一九二一」

大正一二年  
「一九二三」

昭和二年  
「一九二七」

江草斧太郎（写真①）、書店へ有史閣を創業。

小林監俊編「区画改正東京全図」を発行。  
郷里の旧師・嵩古香（写真②）の助言により、社名をへ有斐閣と改称。

〔由来〕

出典は、古代中国の所謂四書の一つ『大学』の一節。  
その昔、「衛」という邦に武公という大徳の君子があり、  
切磋琢磨よく学問に励み、「有斐君子」と呼ばれた。  
これにちなんで、学者と一心同体となって社業に精進せよ、  
との師の願いが込められている。

近火に見舞われ店舗を焼失。

神田区一ツ橋通町に二階建店舗（間口二間半）を新築。

有斐閣雑誌店を神田区一ツ橋通町に併設。

「有斐閣発売書籍雑誌目録」（写真③）を発行。  
以後、断続的に発売書目を発行。

有斐閣版「帝國六法全書」を創刊。

神田区三崎町二丁目辺からの出火により類焼するも、  
同地に木造二階建店舗（間口六間）を新築して復興。

江草重忠（写真①）が第二代店主に就任。

総檜造瓦葺二階建の店舗（間口八間）（写真④）を新築。

「神田の大火」により、有斐閣本店は全焼。  
近くに仮営業所を設け業務を再開。

神田区一ツ橋通町に木造モルタル二階建の店舗（写真⑤）を新築。

最初の有斐閣のマーク（社章）を作成。

〔由来〕



正義と公平を象徴する「剣と秤」を月桂樹の円内に配し、  
創業の年にあたる「一八七七」という数字を挿入したもの。

店舗の隣接地に鉄筋コンクリート三階建の倉庫を新築。

関東大震災により、店舗全焼、店員一名が行方不明。  
焼け残った倉庫で業務を再開。

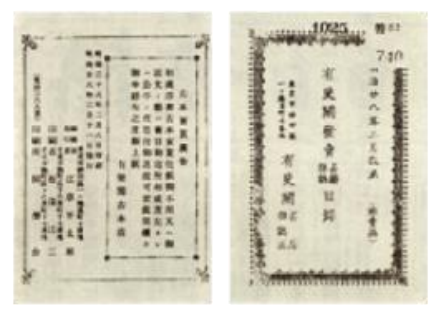
創業五〇周年（写真⑥）。



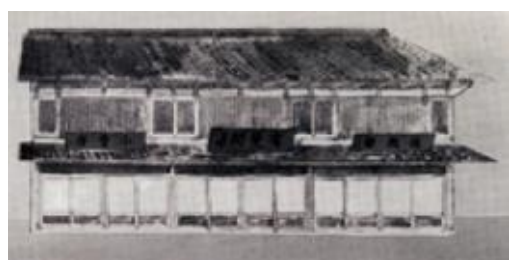
写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥

昭和三年  
〔一九二八〕

昭和八年  
〔一九三三〕

昭和一〇年  
〔一九三五〕

昭和一一年  
〔一九三六〕

昭和一六年  
〔一九四一〕

昭和一九年  
〔一九四四〕

昭和二〇年  
〔一九四五〕

昭和二一年  
〔一九四六〕

昭和二二年  
〔一九四七〕

昭和二五年  
〔一九五〇〕

昭和二七年  
〔一九五二〕

昭和二八年  
〔一九五三〕

昭和二九年  
〔一九五四〕

昭和三五年  
〔一九六〇〕

昭和三九年  
〔一九六四〕

昭和四〇年  
〔一九六五〕

昭和四二年  
〔一九六七〕

昭和四三年  
〔一九六八〕

昭和四七年  
〔一九七二〕

昭和五一年  
〔一九七六〕

昭和五二年  
〔一九七七〕

店舗を新築復興（写真⑦）。  
従来の倉庫に隣接して鉄筋コンクリート五階建の新倉庫を増築。

江草重忠店主、出身地（三重県員弁郡神田村）に「江草奨学基金」を創設。  
江草四郎が第三代店主に就任。

「天皇機関説事件」に関連した行政処分として  
美濃部達吉著「逐条憲法精義」、同「憲法撮要」（写真⑧）が  
発売頒布禁止となる。

有終閣の営業権を譲り受け、有斐閣本郷支店を開設。

日本出版配給株式会社（日配）の設立に伴い、  
有斐閣の小売書店向け取次業務は廃止。


出版事業整備要綱（閣議決定）の実施に伴い、  
松山房、法文社等の実績を買い取り企業統合を完了。

B29の焼夷弾爆撃により、倉庫を除く店舗の大半を焼失。  
出版原本・紙型等を長野県南佐久郡田口村に疎開。

戦後の本格的な出版活動を開始。  
有斐閣京都支店を開設。

新たな有斐閣のマーク（社章）を作成。

〔由来〕



獣の王「獅子」と鳥の王「鷲」を題材に、社会科学から  
人文・自然科学に至る学問分野において最高の権威ある  
書物の出版を目標にしようとの意味が込められている。  
社内公募により制定。

個人企業を法人化し、株式会社有斐閣として発足。  
江草四郎が代表取締役社長に就任。

実用法律雑誌「ジュリスト」（写真⑨）創刊。

PR誌「書齋の窓」（写真⑩）を創刊。

有斐閣、平凡社、野瀬あさの共同出資により新会社を設立し、  
文京区本郷に旅館「のせ」を開業。

ジュリスト創刊200号記念特集「判例百選 重要百判例の解説」発行。  
好評につき、のちに「判例百選シリーズ」（別冊ジュリスト）に発展。

埼玉県与野市に鉄骨造三階建の書籍倉庫を建設。  
有斐閣双書の刊行を開始。

別冊ジュリスト「判例百選」シリーズの刊行を開始。

江草忠允が代表取締役社長に就任（第四代）。

地上八階・地下二階建の新社屋、有斐閣ビル（現本社ビル）（写真⑪）を竣工。

本郷支店が、従来の販売方針を改め、  
当社の全書籍、学術雑誌バックナンバーの展示販売所となる。

「有斐閣新書」の刊行を開始。

創業一〇〇周年。



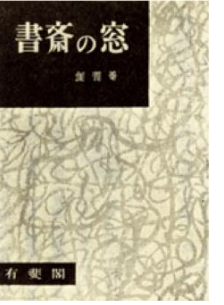
写真⑦



写真⑧



写真⑨



写真⑩



写真⑪

昭和五十三年  
「一九七八」

昭和五十五年  
「一九八〇」

昭和五十八年  
「一九八三」

昭和六十二年  
「一九八七」

平成元年  
「一九八九」

平成四年  
「一九九二」

平成七年  
「一九九五」

平成八年  
「一九九六」

平成九年  
「一九九七」

平成一一年  
「一九九九」

平成一二年  
「二〇〇〇」

平成一四年  
「二〇〇二」

平成一九年  
「二〇〇七」

平成二五年  
「二〇一三」

平成二七年  
「二〇一五」

平成二九年  
「二〇一七」

「ポケット六法」(写真⑫)の刊行を開始。

新宿・紀伊國屋ホールで、第一回有斐閣法学講演会を開催(写真⑬)。  
「月刊法学教室」(写真⑭)を創刊。

江草忠敬が代表取締役社長に就任(第五代)。

財団法人社会科学国際交流江草基金を設立。  
「有斐閣双書Sシリーズ」の刊行を開始。

「有斐閣判例六法」を創刊。

有斐閣京都ビル(写真⑮)を竣工。

「有斐閣アルマシリーズ」の刊行を開始。

京都支店開設五〇周年。

創業一二〇周年を迎え、昭和二五年八月一日の株式会社化にちなみ、  
八月一日を創業記念日と定める。  
埼玉県朝霞市に有斐閣流通センター(写真⑯)が完成。

有斐閣ホームページを開設。

オンデマンド出版を開始。

「株式会社有斐閣サービスセンター」を設立(埼玉県朝霞市)。

江草貞治が代表取締役社長に就任(第六代)。

「有斐閣判例六法 Professional」(写真⑰)を創刊。

「ストゥディアシリーズ」の刊行を開始(写真⑱)。

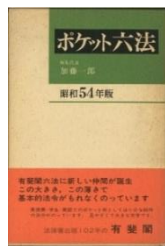
「ろけっとぼっぼー」が有斐閣公式キャラクターとなる。

〔由来〕



社員が、看板商品である『ポケット六法』を「ろけっとぼっぼー」と  
言い間違えたことから生まれたキャラクター。  
二〇一四年秋、営業部 Twitter に初登場。

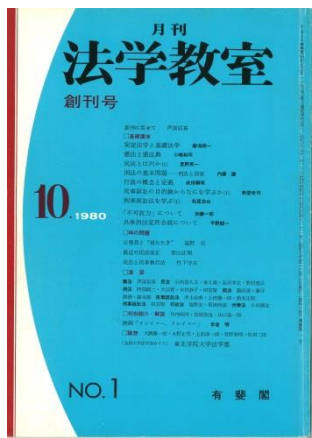
創業一四〇周年。



写真⑫



写真⑬



写真⑭



写真⑮



写真⑯



写真⑰



写真⑱

# 有斐閣シリーズ一覧

幅広い読者層に向けて、有斐閣では様々なシリーズを刊行してまいりました。数あるシリーズの中から、一部をご紹介します。



## 有斐閣コンメンタール

コンメンタールとは、ドイツ語で「注釈書」を意味します。法律を学ぶ上で最も大切なことは、条文の意味内容の正確な理解です。『注釈民法』に代表される本シリーズは、他の追随を許さない一流の執筆陣が詳しく丁寧に解説することから、研究者・実務家から最も信頼できる注釈書として高い評価を得ています。



YUHIKAKU

## 有斐閣ストゥディア

「ストゥディア」(studia)とはラテン語で熱意、情熱、学問、勉学を意味します。大学での「勉強」は、「答え」はひとつではなく、課題を自分から探さなければなりません。その学問と高校までの知識とがどう結びつくのかを理解しながら、じっくり思考を深めるためにまず手にとってほしい1冊として、2013年に刊行開始しました。

## START UP / スタートアップ

はじめての判例学習のための新シリーズ。学習上の最重要判例を厳選し、1件1件をやさしく丁寧に解説することで、学生の理解を徹底サポートします。判決文・決定文を読むときどこにどのように着目すべきか、どのような問題にどのような解決が示されたのか。事案と判旨だけでは難解な事柄も、《読み解きポイント》《この判決／決定が示したこと》で着実な理解に導きます。

ARMA

## 有斐閣アルマ



アルマ (ARMA) とはラテン語で「道具・方策・手段」を意味します。多様化するカリキュラムのもとでの教えやすさ・学びやすさを追求し、豊かな情報量をコンパクト・サイズに収め、機能的編集を心がけた、新しい時代の大学教育に応えるシリーズです。学習の進度に合わせて選択が可能なように4つのグループ分けがされています。1995年に刊行開始しました。



## LEGAL QUEST (リーガルクエスト)

◆基本の徹底から、柔軟な法的思考力へ◆  
法科大学院時代の今、法学部で習得しておくべき「基本とは何か」を追求したテキスト・シリーズ。判例・学説の理論状況を織り交ぜた丁寧な解説に定評があります。分野によっては、事案解決能力を養うための練習問題も加え、読者を「法科大学院をめざす人に求められる水準」へと導くことをめざしています。

TEXTBOOKS

## テキストブックス[つかむ]



TSUKAMU

大学全入時代を迎えた大学教育において、基本科目の基礎知識の完全習得をめざします。理解の単位を、章ではなくコンパクトなユニットとし、解説内容をミニマムに絞って学問の勘所がわかるようにしました。各章や各ユニットの相互の関係をフローチャートなどで示し、ステップを踏みながら学問の仕組みを体得できるように工夫をこらしたテキストです。



## New Liberal Arts Selection (ニューリベラルアーツセレクション)

当該分野を専攻する1年生が初めて出会う専門科目の教科書として、また2~4年生が折にふれひもとく基本書として、さらに諸分野の大学院に進む学生にとって必須の新しい教養書として、大学4年間、手に置いてくりかえし読める本格テキストです。



## 有斐閣ブックス

重厚で本格的な内容を、軽快なソフトカバーに収めた親しみやすい大学テキスト。各学部の基礎的専門科目を中心に、1年生のオリエンテーション向けから大学院をめざす人のための高度な体系書までを含み、充実したラインナップです。1975年に刊行開始しました。

## 有斐閣Sシリーズ 有斐閣Sシリーズ

大学の専門課程の基本科目を徹底的に重視した1科目1冊のスタンダード・テキスト・シリーズ。ゆったりとしたページ・レイアウトのなかに豊富な図表や具体例を収め、重要ポイントを示すなど、読みやすさとわかりやすさにねらいを絞りました。



## 有斐閣コンパクト

著者の個性や講義に当たったアイデアを大切にしつつ、豊富な内容を無駄なくコンパクトに収納したテキスト。1999年に誕生したシリーズで、既刊書はいずれも好評です。



## 有斐閣選書

学生のための基礎的なテキスト・参考書としてだけでなく、生涯学習時代にふさわしい一般市民向けの教養書、国際感覚を養うのに役立つビジネス書など、幅広いラインナップです。



## 有斐閣双書

高い大学進学率に後押しされ、日本経済の高度成長期に、戦後の大学教育とともに育ってきた、歴史あるシリーズ。各学部の講義内容に関するスタンダード・テキストをめざして、企画が重ねられ、今日に至るまで改訂を重ねて愛読されています。



## 有斐閣双書キーワード

基礎的な知識・重要な事柄のキーワードを見開き2ページでわかりやすく解説。辞書的な使い道のほか、学問の体系を手軽に把握するのに便利です。



## 有斐閣 Insight (インサイト)

◆「知る」から「識る」へ◆

現代人と現代社会に対する洞察力を養うための、新しいかたちのテキスト・シリーズ。各学問分野を理解するために不可欠で、学生の関心が高い基本テーマを精選し、第一人者が平易・明快に書き下ろしました。授業やゼミにおいて論点を掘り下げ、学問の理解を深めるのに最適です。



## 法学教室 LIBRARY

## 法学教室ライブラリ

法学教室の連載を単行本化した大人気シリーズ。最新・最先端の判例・学説を取り入れた連載に、単行本化に際してさらに新たな議論を加えています。第一線で活躍する著者による基本的知識の習得にとどまらない一流の授業を、法学教室からすべての方へ。2002年刊行以来、入門書、判例教材、演習書など学部学生から法科大学院生まで幅広いニーズに応えたラインナップを取りそろえ、みなさんのやる気をサポートします。

## ジュリスト BOOKS ジュリストブック

「ジュリスト」の特集・連載等を単行本化した、実用性の高いシリーズ。新法・改正法の解説等、専門家以外の方々にもお役に立ていただける書籍を、迅速に、使いやすい形で刊行します。法律実務家の方々に向けて、実務の最前線を解説する「プロフェッショナル」シリーズにもご注目ください。

Quarterly | Jurist

## 論究 ジュリスト

## 論究ジュリスト

幅広い法分野・法事象を対象に、核心にせまる理論考察を行う法律学究誌。季刊(年4冊)という刊行ペースを活かした「考える雑誌」として2012年5月に創刊しました。重厚な特集や研究会を中心に、毎号、各分野の第一人者による学術的に掘り下げられた議論が繰り広げられています。より高度な法知識の理解と獲得に向け、「雑誌」の枠を超える、充実した内容の1冊をお届けします。 [ジュリスト増刊]

## 別冊 Jurist 判例百選

## 別冊ジュリスト 判例百選

長い歴史をもつ判例学習用教材の大定番。法学部生、法科大学院生を中心に多くの支持を得ています。各法律分野における重要判例を約100個に厳選し、事実の概要・判旨・解説という3要素から説明。分野によってはAppendix(付録の判例)を設けるなど、各百選に応じた工夫もなされています。判例の概要や意義・学説の動向等をつかむのに最適のシリーズです。

## 実務に効く 判例精選

## 実務に効く判例精選

実務での有用性に主眼を置いた判例解説集。実務に即したシリーズラインナップのもと、重要・最新の論点をピックアップ。精選した判例の解説を織り込みながら各論点について解説します。どの事実がどのように心証・結論を左右したのか、それを踏まえて実務はどのような対応をしているのか、といった点にも踏み込む、実務家による、実務家のための、「実務に効く」シリーズです。 [ジュリスト増刊]

## Jurist 増刊

## ジュリスト増刊 法律学の争点シリーズ

## 法律学の争点シリーズ

- 法律学の争点
- 新・法律学の争点

◆ 法律学の“いま”がわかる! ◆

各法律分野において、判例や学説が対立している主要な争点につき、問題の所在から今後の課題までをわかりやすく簡潔に解説しています。新旧問わず、学習上必要な争点のほか、実務の動向を把握するうえで重要な争点も網羅的に取り上げており、法学部生・法科大学院生だけでなく実務家にも役立つシリーズです。 [ジュリスト増刊]